



平成27年3月12日
国土交通省中部地方整備局
名古屋港湾事務所

「名古屋港の未来を考える会」の設立について

～ 親しみをもてる港に向け、女性からの視点で ～

■概要

平成27年3月9日(月)に「名古屋港の未来を考える会」が設立され、名古屋港湾事務所にて懇談会を開催した。

この度の懇談会は、名古屋港が更に魅力ある港へと発展するために、物流・産業のみならず、市民がより親しみをもてる港へ成長することが必要と考え、港のあるべき将来像について女性の視点から港づくりに関する様々なご意見を頂くため開催した。

メンバーは、油田淑子さん(全国消費生活相談委員協会監事)、大竹由紀子さん(総務省行政相談委員)、野田珠生さん(環境カウンセラー)、水尾衣里さん(名城大学教授)、柳田幸子さん(NPO法人伊勢湾フォーラム)の女性5名で、ホスト役は永井一浩名古屋港湾事務所長が務めた。

当日は、当事務所職員より、名古屋港の現状についての説明を行った後、懇談会を開催、その後、海上交通センターの展望台に移動し、名古屋港の各ふ頭の状況やコンテナターミナルなどを視察した。

「名古屋港の未来を考える会」では、定期的に会合を開催し、名古屋港が、より魅力ある港へ発展するための提言をとりまとめる予定。

■懇談会での主な議論

○交流拠点間の交通軸が無く一体感がない

名古屋港の交流拠点は、水族館やポートビルのあるガーデンふ頭と、国際展示場やJRリニア館のある金城ふ頭の2か所あり、それぞれ魅力的。しかしながら、これら結ぶ公共交通機能が弱いため、機能の充実を図り、周遊できるようにすることで賑わいを創出。

○市民の方々へのPRが不足している

名古屋港は、人にとって、さみしい港という感じがする。名古屋駅での案内も不足しており、情報発信を精力的に行うことで集客の向上を図る。

船から見る工場やコンビナートの夜景、各工場の持つ世界に誇る技術力など潜在的なPRポイントは有している。



何か「決めセリフ」を決めてPRする。

○心に残る港へ

人の集まる場所はLEDを設置し港を明るくする。

客船入港時にあわせイベントを開催し、外国人の方の心に残る港としていく。

エリア毎のイメージや施設の配置計画を見直し、長期的な視点で整備を図る。

Sea 級グルメをつくり、免税店などワクワクする買い物ができる場所、星のあるホテル、パワースポットなどを創出するため、関係機関との連携を強化。

港まつりだけでなく、平日も人が呼べるようターゲットを決めるとともに、各施策をレゴランド供用、リニア開通、東京オリンピック開催などを見据え実現。

■日時 平成27年3月9日(月)15時00分から17時00分

■場所 中部地方整備局 名古屋港湾事務所 1階 第1会議室
名古屋市港区築地町2 (052)651-6266(代表)

■行程 15:00~16:10 名古屋港の現状説明・懇談会
16:10~16:30 海上交通センターへ移動
16:30~17:00 海上交通センター展望台より港内視察

■配布先 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、
港湾空港タイムズ、日本海事新聞、海事プレス

■問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所

企画調整課 板生(いたお) TEL 052-651-6763 FAX 052-652-0303

■懇談会の様子



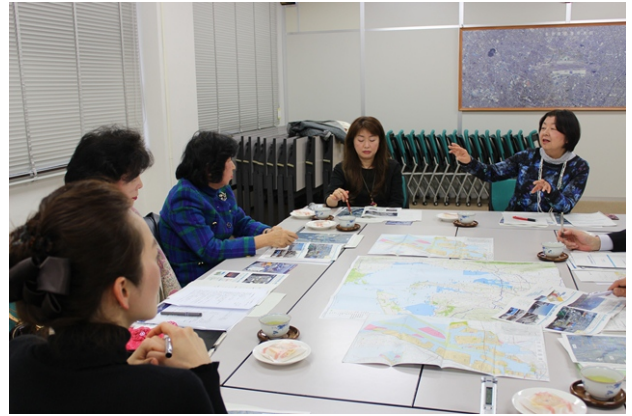
懇談会の様子①



懇談会の様子②



懇談会の様子③



懇談会の様子⑥



懇談会の様子④



名古屋港視察の様子①



懇談会の様子⑤



名古屋港視察の様子②